



ビモータオリジナルパーツ を装着した美麗カフェ

Z2

BRC

TIRE : DUNLOP TT100GP [F]100/90-19-[R]130/80-18

イタリアの雄、ビモータと言えば70年代、オリジナルのトラスフレームにホンダエンジンを搭載したHB、スズキエンジンを搭載したSB、カワサキエンジンを搭載したKBなど、数々の優れたカフェレーサーを生み出したことで有名だ。そのキットパーツは当時日本でも販売されていたが、今回BRCが製作したのは、その当時のビモータスタイルのカフェレーサーである。

「オリジナルパーツにこだわって、日本国内をさんざん探したんですが、40年以上前のパーツなので、まったく見つからなかったんですね。そこで海外のビモータマニアがストックしていたオリジナルを探し出して購入、日本に輸入したんです」

そう語るのは、この車両のオーナーにして同店代表の渡邊さん。そのキットパーツにはサイドカバーも存在したが、この車両ではビート製ア

ルフィンカバー(アルミ製でルーバー状フィンを持つデザイン。当時の国内でも大流行したパーツだ)を装着、キジマ製ドレスアップカバー(パフタイプ)、BRC製手曲げシヨート管に砂型セブンスターキャストホイールなど、日本流のアレンジも随所に盛り込んでいる。スイングアームはビモータ製、リヤサスはコニー製細巻きタイプとくれば、この外観に異を唱える者は、まずいないだろう。

興味深いのは、この車両がZ2でなく、750RS Z2をベースとしていること。あくまでも「70年代ビモータ製キットパーツを装着したZ2カフェ」という路線を踏襲しているわけで、そういった意味でもコンセプトは終始一貫している。何よりもパーツを探し出す苦労を厭わない姿勢、困難に直面してもブレないコンセプトには、ただただ脱帽するしかないのである。